

○「主体的な運営を目指し専門家派遣」

(京都府綴喜郡宇治田原町第3回地区連絡会議)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他
(農業委員会の
体制強化等)

1 活動の日時や時期、場所等

- 日時(時期): 平成30年10月12日午前9時30分～
- 場 所: 宇治田原町役場
- 出席者: 農業委員10人、最適化推進委員8人
事務局3人、農業会議 多田課長補佐
久保コーディネータ
- 報告者: 今井 農業会議現地推進役



2 地区の特徴、状況、課題

- 京都府南東部の中山間地域に位置し、町の中央部を東西に国道307号が走り、お茶の産地として知られている。
- 田原地区は、お茶を中心に、きゅうり、みずな、ねぎ、水稻などが栽培されているが、高齢化により山成り茶園や水田で遊休農地が増加している。



3 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化推進の取組と工夫)

- 事務局主導で実施した過去2回の地区連絡会議では、委員からは多くの意見や課題がだされた。
- 第3回は、委員の主体的な地区連絡会議の運営を目指し、専門家の派遣をお願いした。
- 「地区連絡会議の進め方」と題し、久保先生から中小企業診断士の経験を交え、テーマを具体化すること、一人ひとりが意見し納得すること、また「私たちにできることは何か」というアクション型の問いかけをすることがポイント。
- 意見をさえずらない、否定しない等の前向きなルールをグラドルールとして共有することがポイント。
- 成果を出すためには当事者意識を持つことがポイントと説明されました。
- その後、久保先生が委員と意見交換をしながら、地区連絡会議の進め方の内容を深めた。

4 活動結果

- 情報・意見交換 ↑ 時間
- 担い手への集積 a 増加
- 遊休農地面積 a 解消
- 新規就農者 人 支援